

2008年7月4日
日本銀行決済機構局

次世代RTGS第1期対応にかかる総合運転試験フェーズⅡ（第1回）の結果について

2008年6月15日（日）に実施した、次世代RTGS第1期対応の総合運転試験（RT）フェーズⅡ第1回の試験結果の概要は次のとおりです。

- * RTフェーズⅡは、市場関係者に企画していただくテスト内容に沿って、本番環境に極力近い環境で、次世代RTGS導入後の新しい市場慣行に基づく取引・決済の運営を実践的に確認するフェーズです。
- * RTフェーズⅡ第1回では、281の金融機関等が参加し、想定日（5月12日）の実取引データをもとに、次世代RTGS導入後を想定した支払指図の投入パターンや同時決済口において確保すべき流動性水準、各種市場慣行の実効性等を確認しました。

1. 試験結果の概要

- システム環境面では、日本銀行側、参加先側ともに大きな問題なく終了しました。
なお、ごく一部の先においてシステム環境の設定ミス等がみられましたが、いずれも試験当日中に解決ないし次回RTに向けて対応済みとなっています。
- 試験内容面については、当座勘定（同時決済口）における決済は、当預取引、外為円決済取引ともに、全体として円滑に進捗しました。
 - * 参加先から頂いた結果報告書の集計結果は別紙1、RTにおける決済データの集計結果は別紙2のとおりです。
- このうち当預取引（主に市場取引）についてみると、コール取引の返金が集中する9時台においても、円滑な決済が行われました。もっとも、個々の参加先については、決済口座を誤って支払指図を送信したり、決済時限が守れなかったケースが一部に見られました。
外為円決済取引については、想定日と比較して、送信タイミングが総じて早まりました。また、一部の先を除き、外国為替円決済制度の支払指図電文の送信に関する申合せ（紳士協定）¹を遵守する形で決済が進捗しました。
 - * 短期金融市場取引活性化研究会による市場取引に関する評価は別紙3、東京銀行協会による外国為替円決済制度に関する評価は別紙4のとおりです。

¹ 外為円決済取引については、午前11時までに1日の同時決済口支払指図の取扱量のうち、件数の65%、金額の55%(待機された同時決済口支払指図を含む)を送信するものとする。なお、同時刻までに決済される当該支払指図についても同様の進捗率となるよう必要資金の当座勘定（同時決済口）への投入等により確保するよう努めるものとする。

2. 次回以降の対応

○ 日程

既にご連絡しているとおり、RTフェーズⅡ第2回を8月3日（日）に、第3回を9月7日（日）に実施することを予定しています。第2回は外為円決済取引の繁忙日（5月7日）、第3回は短期金融市場取引の繁忙日（6月30日）を想定した形で実施します。

* 止むを得ない事情により日本銀行が必要と認める場合、予備日（9月21日（日））を用いてRTフェーズⅡを追加的に実施します。

○ 実施手順書の見直し

RTの実施手順書に関しては、環境編、市場取引編、外国為替円決済制度編のそれぞれにつき、必要に応じて見直しを行い、7月中旬を目処に次回以降の試験参加者に送付する予定です。

○ 参加者におかれては、今回一部にみられた問題点や、実施手順書の見直し結果等を踏まえつつ、次回以降の試験に向けた準備を進めて頂きますようお願いいたします。

日本銀行としても、試験環境の提供にあたり万全を期するとともに、10月14日（火）に予定している次世代RTGS（第1期対応）の稼動開始に向けて、引き続き着実に準備を進めていく所存です。

以上

<本件に関する照会先>

日本銀行 決済機構局 決済企画担当 代表電話番号 03-3279-1111

田尾 一輝（内線 2963） 猪又 祐輔（内線 2957）

電子メール post.rtgsg@boj.or.jp

R TフェーズⅡ（第1回）結果報告書の集計結果

<貴社において事前に予定していた試験内容を問題なく実施できましたか>

問題なく実施できた	一部実施できなかった
269 (95.7%)	12 (4.3%)

* 括弧内は、R T全参加先に占める構成比。

<問題のあった点、実施できなかった点（例）>

決済口座相違	同時決済口で決済されるべき取引が通常口で決済されてしまった（または、その逆）。
決済時限遅延	コール取引等の決済時限が一部の取引について守れなかった。
試験用データ不備	想定日の取引のうち試験において決済すべき取引の洗い出しが漏れていた。
	振替依頼・付記電文付や外為円決済支払指図の送信の際、必要な付記情報や委託銀行名等のデータが記載されていなかった。
その他	予定されていた入金が行われなかったため、取引相手方に連絡したが不在だった。

RTフェーズⅡ（第1回）における決済データの集計結果

1. 当座勘定（同時決済口）における取引

	当預	外為	合計
件数	6,222	33,605	39,827
金額（億円）	378,579	237,216	615,795

- * 当預は「振替依頼（同時決済口）」、「振替依頼・付記電文付（同時決済口）」、外為は「BANK TRANSFER (QUEUE OFFSET)」、「CUSTOMER TRANSFER (QUEUE OFFSET)」。
- * 結果として取り消された取引も含む。

2. 平均決済時刻と待機時間

単位は“時：分：秒”

	当預	外為	合計
平均送信時刻（金額加重平均）	11:05:04	10:41:16	10:55:54
平均決済時刻（金額加重平均）	11:17:47	10:51:52	11:07:48
平均待機時間（単純平均）	0:02:57	0:02:58	0:02:58

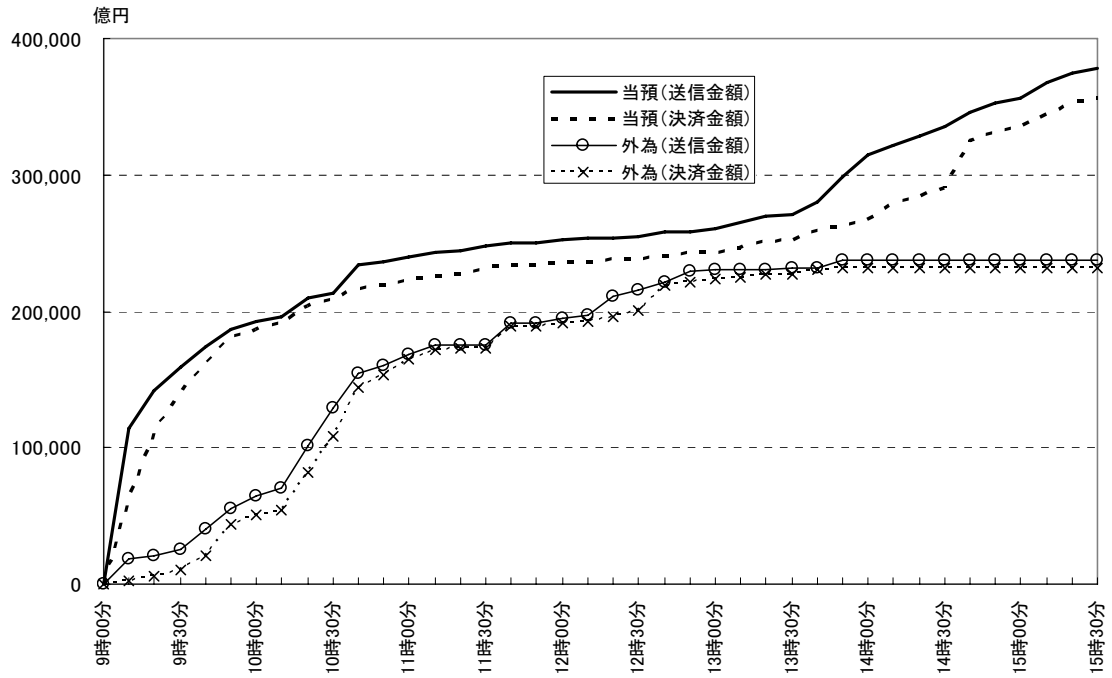
待機時間別決済件数（構成比）

待ち行列の待機時間	当預	外為	合計
0分	81.8%	85.7%	85.1%
00-15分	10.1%	8.3%	8.6%
15-30分	5.5%	2.8%	3.2%
30-60分	2.2%	1.6%	1.7%
60分以上	0.4%	1.7%	1.5%

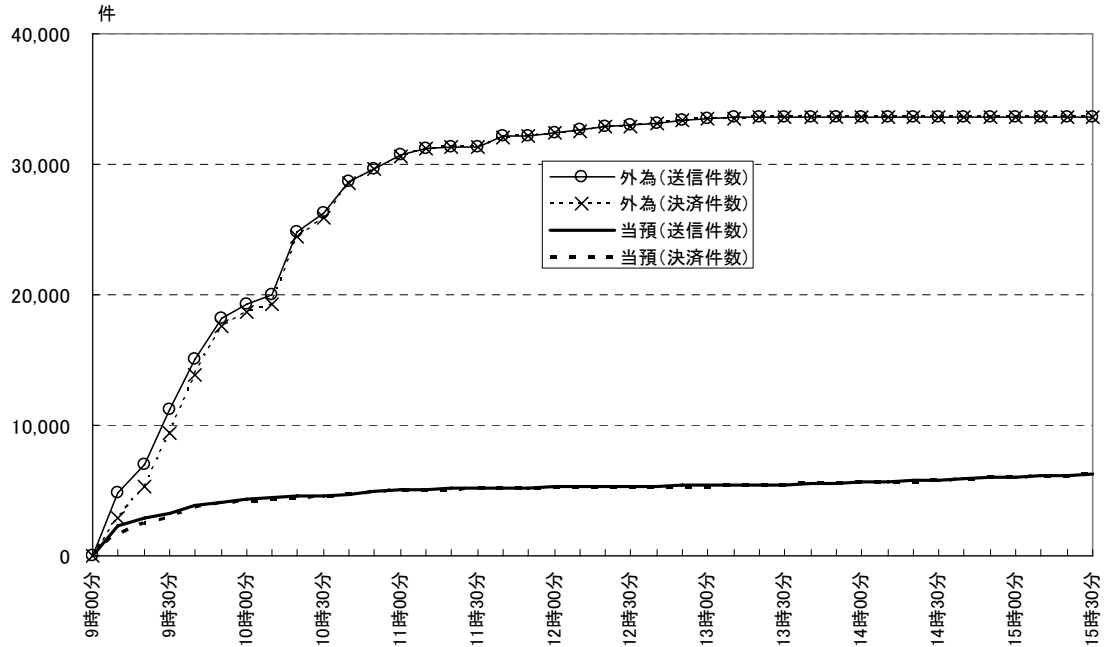
- * 金額加重平均は、（金額と時間の積の総合計）／（金額の総合計）により算出。取り消された取引は、取り消された時刻を決済時刻とみなした。
- * 待機時間は、指図が投入されてから決済されるまでの時間（取消の対象となった取引は指図投入時点から取消時点までの時間）。

(参考図表) RTフェーズⅡ(第1回)における決済進捗

【金額ベース】



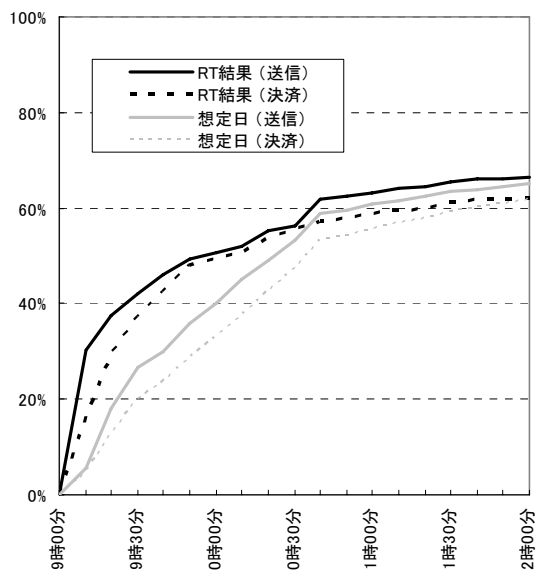
【件数ベース】



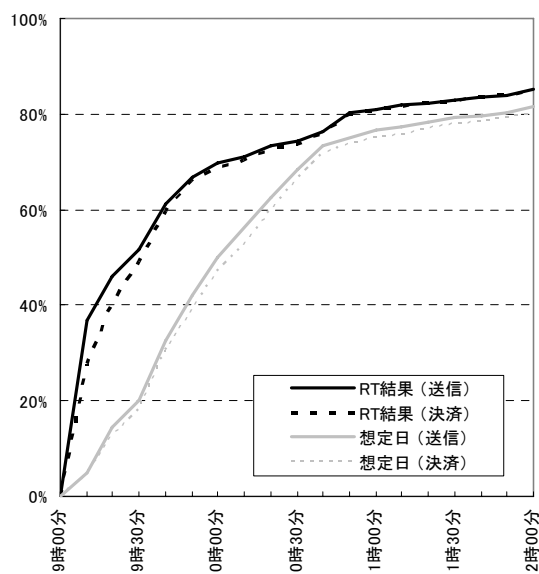
* RTでは当座勘定(同時決済口)の終了時刻を1時間前倒し(16:30⇒15:30)している。

(参考図表) RTフェーズⅡ(第1回)と想定日(5月12日)における決済進捗の比較

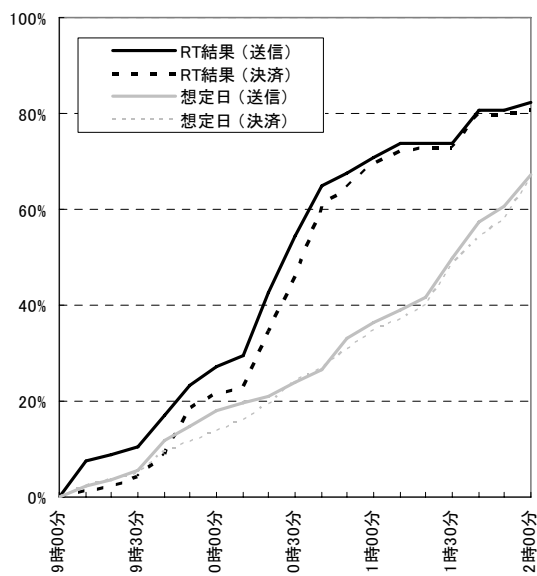
【当預取引 金額ベース】



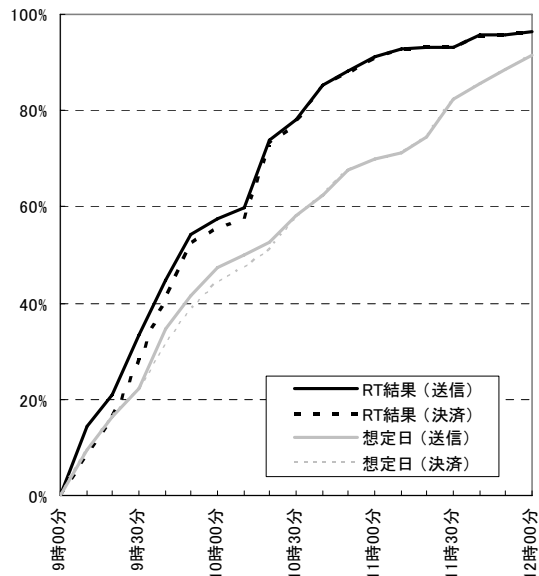
【当預取引 件数ベース】



【外為取引 金額ベース】



【外為取引 件数ベース】



* 1日の送信件数(RTにおいて結果として取り消された取引も含む)を100%とした場合の累積進捗率。

* RT結果と想定日(5月12日)では、ベースとなる取引が異なる。

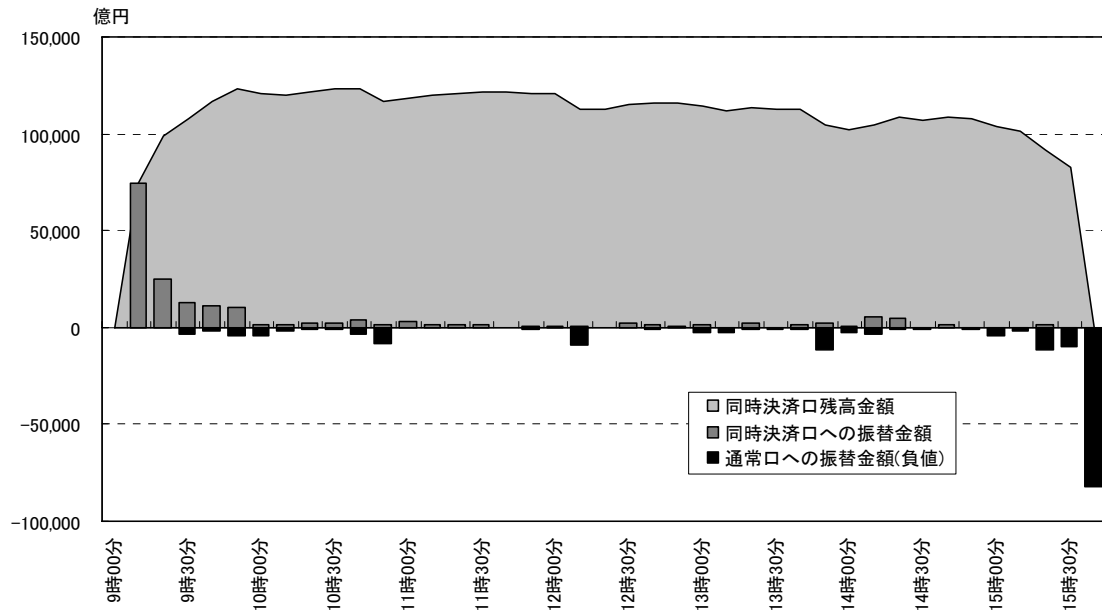
・ 想定日における取引の全てがRTにおいて同時決済口で決済されるとは限らない(市場取引であっても相対での合意により通常口で決済されるものがあるなど)。

・ RTでは想定日に行われた取引以外にも試験用の仮想取引が行われている。

* 「想定日(決済)」は、想定日の実取引データを元に行った事前シミュレーションの計数(各先の流動性投入水準を仕向超ピーク額の50%としたケース。シミュレーション手法については「次世代RTGSプロジェクト通信 第2号」を参照)。

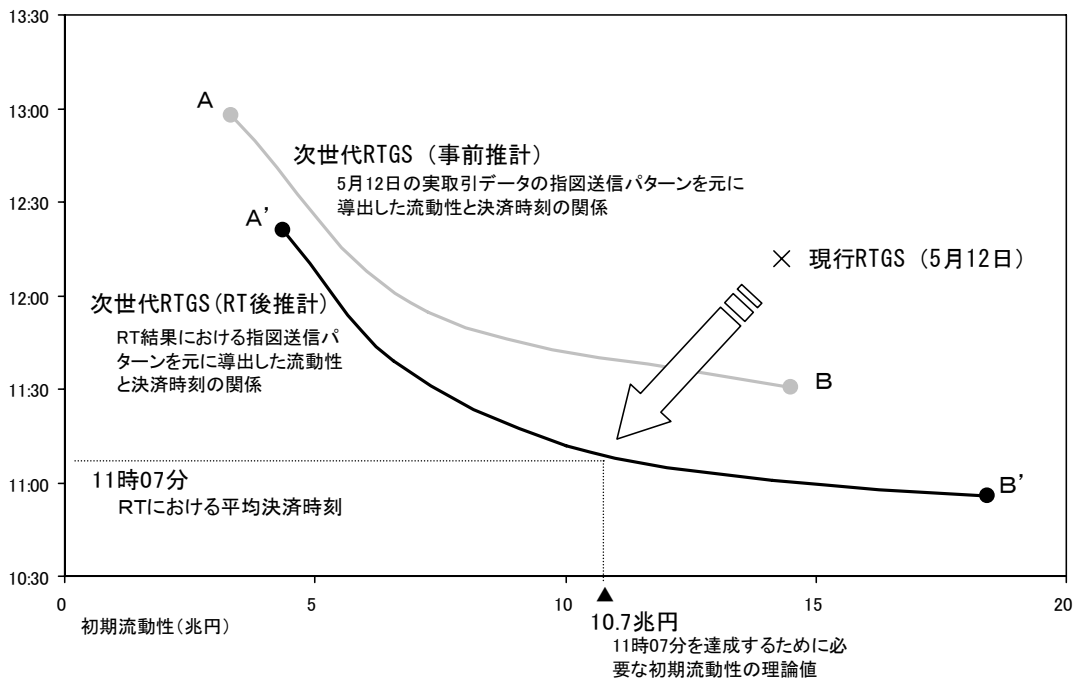
(参考図表) 流動性と決済時刻

【自己勘定間振替と同時決済口残高の日中推移】



- * 自己勘定間振替とは、参加者による自己の当座勘定(同時決済口)と既存の当座勘定(通常口)との間の資金の振替をいう。
- * RTで実際に行われた自己勘定間振替から、同時決済口への投入金額が極端に大きい(8~10兆円)先の取引を控除した(3先、7件。こうした先の仕向金額の合計は最大で50億円程度)。

【所要流動性と平均決済時刻】



- * 「現行RTGS」は、当預はRTGS、外為は14:30に時点ネット決済される下で実現した平均決済時刻とそのために必要な初期流動性の水準。
- * 点AおよびA'は、初期流動性をネット負け戻した場合、点BおよびB'は仕向超ピーク額とした場合の平均決済時刻(シミュレーション手法については「次世代RTGSプロジェクト通信 第2号」を参照)。

2008年7月4日
短期金融市場取引活性化研究会

次世代RTGS総合運転試験(RT)フェーズⅡ第1回(6月15日実施) 市場取引に関する評価について

1. 評価

市場取引に関しては、今回のRTフェーズⅡの目的である、「市場関係者の企画した内容に沿って、本番環境に極力近い環境で、新しい市場慣行に基づく取引・決済の運営方法を実践的に確認する」ことができた、と評価いたします。

「次世代RTGS後の市場慣行」の遵守状況^{※1}については、結果報告書、決済データの集計結果および短期金融市場取引活性化研究会が実施した参加者宛のアンケート結果^{※2}から、概ね参加者が遵守できたことが確認できました。

※1 ◎当座勘定(同時決済口)で決済すべき取引が決済できたか

◎コール取引についての市場慣行

- ・遅くとも午前10時までに返金する返金先行ルール
- ・約定後1時間以内のスタート資金決済
- ・返金を前提とした資金放出の取扱い
- ・「優先」指定

などの遵守状況

※2 アンケート提出先の90%以上から、「次世代RTGS後の市場慣行」に沿った試験ができたとの回答を頂きました。また、一部の参加者からは、相手方のコール取引の決済時限遅延、コール取引の「優先」指定漏れ、「通常口」「同時決済口」の決済口座相違などにより、一部市場慣行に沿った試験が実施できなかった、との回答も頂きました。

2. RTフェーズⅡ次回の検討課題等

実施手順書(市場取引編)および次世代RTGS後の市場慣行について、さらに周知を徹底することが検討課題であると認識しております。

具体的には、以下の点などについて、必要に応じ、実施手順書(市場取引編)の修正版や留意事項の作成などにより、周知徹底する予定です。

①実施手順書(市場取引編)

- ・同時決済口への振替金額の上限、下限
- ・実取引データから変更する際の留意点などについて

②次世代RTGS後の市場慣行

- ・市場取引についての決済時限の遵守
- ・決済口座の確認の徹底

以上

<照会先>

短期金融市場取引活性化研究会幹事(みずほ銀行総合資金部) 木村淳一 Tel03-3596-4254

2008年7月4日
社団法人 東京銀行協会
外国為替円決済制度運営部会

次世代RTGS総合運転試験フェーズⅡ第1回(6月15日実施)
(外国為替円決済制度)に関する評価等について

1. 評価(支払指図電文の送信に関する申合せ(紳士協定)の遵守状況)

支払指図電文の送信に関する申合せ(紳士協定)*の遵守状況については、一部の銀行を除いて、遵守が確認できたことから、今回のテストの目的は達成されたものと評価する。

* 午前11時までに件数の65%、金額の55%を送信・決済する。

達成率 全体	件数 90.9%	金額 69.4%
(事前シミュレーション結果	件数 69.6%	金額 33.1%)

未達銀行 2行

(原因)

1行: 試験環境におけるプログラムミス

1行: 試験環境における支払指図送信時刻の設定ミス

2. 次回のRTに向けての検討課題等

- 一部の銀行が実施手順書と異なる対応を行ったところ、次回以降の総合運転試験においては、実施手順書どおり対応することについて、再度徹底する。
- 今回の総合運転試験では、支払指図電文の送信タイミングが、総じて想定日の実取引と比較して早めであった。これは、次世代RTGS後を想定した前倒し送信の影響に加え、試験においては、実際に想定される指図送信ペース以上に前倒し送信を行った先があった結果と思われる。

実際の運用では、支払指図が、加盟銀行の流動性管理のみならず仕向銀行の与信管理(カバー未到着に拘らず送信していないか。当預残高一テスト用として多額が振り込まれている一を前提に、同時決済口の初期残高を積上げ過ぎていないか等)も踏まえて送信されることを考慮し、次回以降の総合運転試験においては、当該与信管理等も考慮した支払指図の送信を行うこととする。

以上

[本件照会先] 東京銀行協会 事務システム部 外国為替円決済制度管理室
佐方、井出野 (TEL:03-5252-3750、3751)